

共に生きて

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-r

小さな命の キセキ



6

登山 万佐子

今回は、新生児集中治療室(NICU)に入院中の子ども（B）のきょうだいについて書きます。

長女綾美(8)が生まれた翌日、幼稚園の年中だった長男（B）が夫と私の母と3人で病院に来てくれました。「妹に会える」という喜びと期待に満ちあふれて！「ころか、私はひどい顔色で点滴と車椅子と共に現れ、妹は狭い面会室で画面に映る姿を見るだけ。息子は期待外れでふてくされてしまいました。」

小学1年生で書いた作文にこうあります。「もうすこしでママも いもつとも しぬと」だった。そのかなしさを、びょういんにいっても ねむ

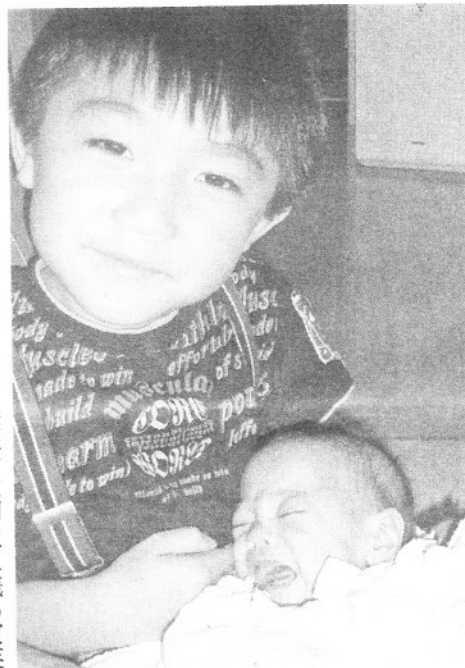
れなかった」。鮮明な記憶として刻まれていることを痛感しました。妹が早産で「超低出生体重児」として生まれたことで、息子にはいろんな我慢を強いることになりました。大人の不安も敏感に感じ

幼い息子耐えた6カ月

取っていました。

娘が生まれて1カ月半の正月、息子のためだけに1日を過ごそうと家族3人で遊園地へ行きました。思いっきり遊んだ帰りにNICUに寄り

ました。NICUに子どもは入れません。いつもは息子が1人にならないよう、30分の面会時間を夫と平分ずつ交



生まれて6カ月の妹綾美ちゃんを初めて抱っこし、うれしそうな兄

代して行きました。でも、その日は「2人で行ってきていいよ。僕は大丈夫」と息子。

以来、1人で待ってくれるようになり、面会室で一緒にあった方という話をしてきたようです。看護師さんが持っていたもくろ浴練習用の人形を抱っここの練習をしていたこともありました。

面会室では印象に残る家族

数組に出会いました。2歳ぐ

らいのお姉ちゃんを連れてお母さん。いつも冷凍した母乳を入り口で看護師さんに預

け、NICUには入らず帰っていくのです。お姉ちゃんがほんの少しもママと離れられないのことでした。双子のお母さんもいました。双子の

状態にかなり差があり、先に退院したばかりの小さな赤ちゃんを連れての面会でした。

きょうだいの預け先がなかったり、病院まで片道2時間かかり、きょうだいの幼稚園の迎えに間に合わなかったりするため、週1、2回しか面会に来れないという人もいました。院内や面会室にきょうだいのための託児施設があるといいなと思います。

さて、いよいよ娘の退院の日。息子も幼稚園を休んで家族そろって迎えに行きました。「6カ月かたって、ほくはいもつとをだっ」でできるようになりました。「いもつととママはいきかえりました。」

そして、はじめて車にのったとき、うれしかったみたいだった」と、その日のことも作文に書いています。初めて妹に触れ、抱っこした日です。

最高の笑顔でした。幼かった息子も本当によく頑張ってくれました。(「N」つ子クラブ

カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)